

シンポジウム「Marine Ecophysiology」

要 旨

トビハゼ・ムツゴロウとは？ ―その観察から見えてきたもの―

田北 徹（長崎大学水産学部）

トビハゼ・ムツゴロウ類Oxudercinaeは、世界に35種（Murdy, 1989; Murdy & Takita, 1999）、日本に5種、生息している。私は、1994年から5年間にわたり、文部省科学研究費（国際学術研究）により、マレーシア(M)とインドネシアのスマトラ(S)で、本亜科魚類の採集と記録を行い、下記の12種の生息を確認し、多くの種の生息状態を調べた。

Boleophthalmus

B. boddarti (Pallas) (M, S)

B. dussumieri Valenciennes (M, S)

Oxuderces

O. dentatus Eydoux & Souleyet (M, S)

Parapocryptes

Pa. serperaster (Richardson) (S)

Periophthalmodon

Pn. schlosseri (Pallas) (M, S)

Pn. septemradiatus (Hamilton) (S)

Periophthalmus

Ps. chrysopilos Bleeker (M, S)

Ps. gracilis Eggert (S)

Ps. novemradiatus (Hamilton) (M, S)

Ps. sp. (S)

Pseudapocryptes

Pss. elongatus (Cuvier) (M, S)

Scartelaos

S. histophorus (Valenciennes) (M, S)

また、有明海では、ムツゴロウ*Boleophthalmus pectinirostris*、トビハゼ*Periophthalmus modestus*とタビラクチ*Apocryptodon punctatus*を、再生産を中心に調査した。その結果、courtship display、干潟におけるlocation能力や干潟の生物生産性との関係に、興味深い現象が見えてきた。本セミナーでは、ほとんど手つかずの項目も含め、生息環境や生活様式における独特で多様な適応を紹介し、今後の研究の題材を提供したい。